令和６年度 玉葉会乳児院 事業報告

【施設種別】児童福祉法による乳児院　　【入所定員】　　３５名
　　【暫定定員】　　３４名

６年度は、入所を必要とする子どもの多い一年で、一時保護で受け入れた子どもがそのまま入所に切り替わることが多く、特に年度の後半は暫定定員３４名を上回る３５名、時には一時的に３６名を受け入れざるを得ない日も多くあった。

さらに地域親子支援としての施設ショートステイや里親ショートステイの依頼も多く、そのショートステイの必要性と同時に児童相談所からはいつ緊急依頼があるかもしれないという懸念との狭間で、ジレンマを感じながら対応に苦慮した一年であった。

新型コロナウィルスが５類となって一年が経つ中、夏場には例年にない勢いで手足口病が流行し、また年間通じてアデノウィルスを中心とした感染症が発症、子どもたちの間で感染拡大し、対応に追われた。課題は残るものの、今まで培った経験から多職種により協力しながら対応することができたと思われる。

子どもの権利が叫ばれて久しいが、名古屋市子どもの権利擁護委員会を中心にした権利擁護の取り組みが進められている中、当院においても権利擁護委員会を軸として取り組んでいる。６年度は、名古屋市子どもの権利相談室「なごもっか」の委員をされている方をスーパーバイザーとして招き、当院の権利擁護の取り組みをどのように進めていくか、その枠組みの整理に着手した。

また、名古屋市子どもの権利擁護委員会の研修会では、当院の取り組みにおける「上手く進んでいない葛藤」について事例報告を行ったが、意外にも好評だったことと併せて、生の声を行政に届けることができたように思われる。

社会的養育推進計画が施設に求める家庭的養育の実践の一つとして、小規模ユニットでの運営を始めて４年目となり、コロナ渦において果たせなかった小規模ユニット化の当初の理念を運営会議で再確認して、７年度の新たな養育体制へと繋げる動きを行った。

１　理念
　明るい笑顔で　のびのびと

２　年間養育目標
　１　一人一人の姿や気持ちに寄り添いながら、愛着関係を築いていく
　２　いろいろな経験を通して、心身共に豊かに育てる

３　職員関係

１　職員の状況（令和７年３月 31 日現在）

区分	施設長	医師	事務職	看護師	保育士	栄養士	調理員	心理士	その他	計
常勤	１	０	１	５	３５	１	５	２	０	５０
非常勤	０	１	０	０	８	０	０	０	６	１５
合計	１	１	１	５	４３	１	５	２	６	６５

２　諸会議・研修会

(1) 施設内会議

① 職種別会議　　月１回
② 運営会議　　月１～２回
③ 養育会議　　月１回
④ リーダー会議　　月２回
⑤ クラス会議　　各月１回
⑥ 給食会議　　月１回
⑦ 看護会議　　月１回
⑧ 調理会議　　月１回
⑨ 衛生委員会　　月１回
⑩ 各種委員会　　適宜開催
⑪ 各種係会議　　隔月１回

(2) 施設外会議（法人内会議を除く）

① 各種施設長会議　　随時
② 名古屋市子どもの権利擁護委員会

(3) 研修会

① 全国乳児院研修会
② 中部ブロック研究協議会
③ 全乳協施設長研修
④ 東海北陸ブロック各職種会議
④ 県乳協各職種部会
⑤ 名古屋市権利擁護委員会・研修
⑥ 養育主任者会・
　家庭支援専門相談員合同研修
⑦ 施設長研修
⑧ 総務主任者会
⑨ 心理療法担当職員研修
⑧ 栄養士各種研修
⑨ 児相研修部会
⑩ 専門研修
⑪ 中堅研修
⑫ 医療看護セミナー
⑬ 保健・衛生研修
⑭ 救命研修
⑮ 防災研修
⑯ 新規採用者研修
⑰ その他

４　施設整備の状況

１　業務用洗濯機２台入替工事
２　調理室倉庫内収納棚取替工事

5　栄養と食生活

1　子どもの栄養状態、体調を把握し、そのときに合った食事の提供
2　月に２～３回昼食に焼きたてのパン・ピザをメインに提供
3　誕生日に手作りケーキを提供
4　個々に合った食事の提供
5　行事食等、子どもの食事の充実
6　4・5・10・11 月の行事の無い週の水曜日にお弁当を提供

6　防災・防犯対策

1　火災想定避難訓練(月１回)､大規模地震発生を想定した炊き出し訓練(年１回)、警察署員の指導の下防犯訓練(年１回)、土砂災害訓練(年１回)、抜き打ち避難訓練（日中、１回）断水訓練（日中年２回）等の実施。
2　防災委員の指導にて消火器訓練を行った。
3　防災倉庫の点検・備品の補充をした。
4　稼働部屋の増加に伴い、避難経路図の改訂・貼り出しをした。
5　新稼働した部屋から非常時避難できるよう、スロープの設置をした。
6　防災マニュアルの改訂・職員への配布をした。
7　大地震が起きた際全職員が動ける状態にしておくため、防災倉庫の鍵の置き場・備品の置き場・バッテリーの使用方法などの再周知を行った。

7　衛生委員会（月１回実施）主な活動内容

1　感染症対策　・コロナ感染症　・インフルエンザ　・ノロウイルス
産業医より状況、傾向など情報提供してもらい随時の対策に活かした。
2　職場巡視、各所営繕
週１回施設内を巡視し衛生面も含め、環境整備に努めた。
3　職場の「困った」起案シートの活用
職場環境改善のための意見箱を設置し改善に努めた。
4　熱中症対策
気温、湿度を表示し、注意喚起をする。
5　メンタルヘルス対策
a.ストレスチェック　　受検率 100%　　高ストレス者５名（10.4%）
＊ストレス値の高かった項目
①　自覚的な身体的負担　②心理的な仕事の負担(質)　③職場での対人関係ｽﾄﾚｽ
・腰痛予防のため授乳椅子、及びクッションを購入
・不機嫌ハラスメント「フキハラゼロ」提示
b.・　指導する立場の職員にラインケア研修、全職員にセルフケア研修実施
6　その他
・生活習慣病予防　　・食中毒　　・腰痛対策　　・花粉症対策
・労働衛生週間、交通安全週間

8　児童関係

1　行事（年間行事・随時行事）

月	行事名	概要	月	行事名	概要
4 月	お花見	近隣公園 院内	10 月	秋祭り 遠足 ハロウィン	院庭 近隣施設 院庭
5 月	こどもの日 遠足	院内 東山動物園	11 月	七五三詣 買い物	熱田神宮 近隣施設
6 月	お店屋さん	院内	12 月	買い物 クリスマス会	近隣施設 多目的室
7 月	七夕会 買い物	遊戯室 近隣施設	1 月	初詣	近隣神社
8 月			2 月	節分 いちご狩り （中止）	遊戯室
9 月	ぶどう狩り お月見	近隣施設 遊戯室	3 月	ひな祭り 旅立ちの会 買い物	遊戯室 遊戯室 近隣施設

2　児童の状況

(1)　月別入退所児童数（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
一時保護	7	7	5	6	4	7	12	12	10	9	7	2	88	7.3
初日在籍数	16	19	21	21	22	22	21	22	23	24	25	32	268	22.3
入所児童	3	1	2	0	2	1	1	3	1	2	0	3	19	1.6
退所児童	2	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	8	14	1.2
措置延人員	517	592	657	678	682	636	639	665	721	749	649	985	8,170	29.5
一時保護延	251	202	166	193	189	236	350	317	247	186	181	78	2,596	

以降、一時保護児は集計には含めない

(2)　月齢別在所児童数（令和７年３月 31 日現在）

月齢	６ケ月未満	６ケ月以上 １歳未満	１歳以上 １.５歳未満	１.５歳以上 ２歳未満	２歳以上	合計
在院児童	6	4	8	5	5	28

(3)　在所期間別退所数（令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）

在所期間	１ケ月未満	１ケ月～ ３ケ月未満	３ケ月～ ６ケ月未満	６ケ月～ １年未満	１年～ ２年未満	２年以上	合計
退所児童	0	0	1	0	4	4	9

(4)　退所理由別、退所年齢（令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）

親元 引取	親族 引取	里親 委託	他施設に措置変更		その他	合計
			児童養護	その他		
2	0	2	4	1	0	9

(5)　入所理由（令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）

両親の状況													
遺 棄	親 蒸 発	父 家 出	母 家 出	親 別 居	母 未 婚	受刑等			父 虐 待	母 虐 待	親 死 亡	養 育 困 難	小 計
						親	父	母					
0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4	0	4	8

家族の疾病							
父の疾病		母の疾病			家族 の 疾病	小 計	合 計
精神 病等	その他 病気	精神 病等	次子 出産	その他 病気			
0	0	1	0	0	0	1	9

(6)　入所時の子どもの年齢

子どもの年齢	人数
1ヶ月未満	5
～3ヶ月未満	0
～6ヶ月未満	0
～1歳未満	0
～2歳未満	3
2歳以上	1
合計	9

(7)　入所時の母の年齢

母の年齢	人数
20歳未満	0
～25歳未満	4
～30歳未満	1
30歳以上	4
不明	0
合計	9

3　ショートステイ利用状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	2	4	2	1	1	5	6	2	0	0	2	0	25

利用理由	母の出産	母の疾病	育児疲労	その他
	2	10	1	12

利用日数	5日以内	10日以内	11日以上
	15	7	3

4　地域交流事業（母と子のふれあい広場）

活動は継続的に行っている。募集するがなかなか参加者がおらず今年度は12月・2月の2回開催となった。

ブログは毎月の更新ではなく、定期的な更新とした。

事業名	母と子のふれあい広場「ありんこ」
ブログ投稿 5月・8月・11月・12月・1月・2月	
第１回	令和６年１２月２５日 場所：会議室 内容：クリスマス会 ：サンタのカスタネット・ぺんぎんのマラカス・ツリーの鈴製作 ：楽器演奏

第２回	令和７年２月２５日 場所：会議室 内容：手形アート

５　家庭支援専門相談員実績

家庭・関係機関との連携状況（令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月
面会	31	31	11	17	26	22	39	35	24
外出	14	8	4	1	4	4	3	4	7
外泊	7	8	1	3	2	3	4	6	0
サポート会議 家族応援会議	0	1	1	0	0	1	0	0	0

１月	２月	３月	合計
27	20	21	304
4	2	3	58
4	4	5	47
0	0	2	4

コロナ期間は交流を制限していたが、令和５年度は制限なく交流ができた。
面会交流では保護者の育児手技習得の援助、家庭復帰後は電話やメールでの育児相談を受け、児童相談所と家庭訪問し、育児の悩みをサポートできるよう支援を行う。

６　育児指導担当職員

家族・関係機関との連携状況（令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月
サポート会議	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族応援会議	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家庭訪問	6	5	3	6	4	4	5	8	10

1月	2月	3月	合計
0	0	0	0
0	0	0	0
4	8	10	73

令和２年４月から配置された役割。
基本的に入所児が家庭復帰を目指し、児童虐待の未然防止及び再発防止のための保護者への養育支援等を行うことを目的として配置された。
主な活動は、家庭復帰する前から訪問支援を行い、保護者の育児困難感に寄り添い、育児について共に考え、家庭復帰後も安心して家族が生活できるよう子育てのサポートをおこなう。家庭訪問だけでなく、電話相談やメールでのやり取りも行い、保護者との信頼関係の構築を目指している。

家庭訪問を定期的に行うことにより、施設内では見られないような保護者のリラックスした様子が見られ、より深い話を聞くことができる。

家庭引き取り後に出てくる保護者の悩みや育児に対する不安を和らげるための相談を受けたり、子どもの変化を見たりして家庭状況の安定を図ることを目指す。

7　里親支援専門相談員　実績活動報告書（令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	里親宅	27	23	23	26	19	21	22	12	25	20	18	23	259
	関係機関	0	1	2	0	1	2	1	4	1	1	3	2	18
電話	里親宅	16	16	15	22	11	14	14	15	28	14	19	19	203
	関係機関	40	54	68	37	30	35	53	37	44	45	43	48	534
メール	里親宅	49	72	43	28	32	26	38	39	54	107	106	84	678
	関係機関	34	36	42	40	47	23	26	14	68	53	48	71	502
来所	里親宅	17	5	19	1	3	5	7	5	7	5	8	8	90
	関係機関	3	2	0	0	2	1	6	1	4	0	4	0	23
里親研修など		3	2	6	5	2	3	4	3	1	5	0	0	34
マッチング		2	3	1	3	3	0	2	2	3	2	3	2	26
自立支援計画		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レスパイト		0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	4

サロンなど	0	6	3	1	2	2	0	0	0	1	1	0	16
里親 ショートステイ	4	5	6	5	2	5	6	5	3	4	0	5	50
計	195	225	229	168	154	138	180	137	238	257	253	263	2437

児童相談所の里親担当職員・里親委託等推進員・ケースワーカーと役割分担して里親宅を訪問した。訪問では子育ての助言や里親の近況報告を聞き、相談支援を行い、里親の育成としては、新規里親研修の基礎研修、登録前研修、更新研修の補助を行った。

乳児院から里親支援する里親と児童のマッチングから交流、委託への育児指導、相談支援、助言、児童との調整を行った。６年度は里親委託が８件、交流中が１件あり、部屋リーダーや担当保育士と協力し、児童と里親の交流を進め、委託までの支援を行った。乳児院でコロナが発症し、隔離が続いたためマニュアル通りの交流ができなかったが、里親と話し合いをしながら子どもも里親も安心して委託開始できるよう交流支援を行った。

地域の親子支援としての里親ショートステイの調整、送迎を職員と協力しながら行った。定期的に利用される世帯が多く、同じ里親宅へ毎月ショートステイすることで保護者や児童が安定した生活を送れるよう支援した。

８　心理士

養育補助と衛生委員を中心とした活動、生活場面面接、クラス会議での心理的見立ての共有とコンサルテーション、発達検査、プレイセラピーを中心とした活動を行った。今年度は、簡易発達検査の導入、ケース状況に合わせてプレイセラピー枠を拡大して取り組んだ。一方で、今年度検討していたアタッチメント研修を実施することができなかったため、来年度設定することとした。また、導入した発達検査も効率や精度を上げていく必要が窺え、来年度調整を重ねていく算段である。

９　その他

苦情件数０件